

電気ショッカーボートによる南湖各水域のオオクチバス捕獲状況

臼杵 崇広・磯田 能年（水産課）

1. 目的

電気ショッカーボートを用いた駆除事業の実施により、琵琶湖南湖の各水域におけるオオクチバスの生息状況が今後どのように変化していくか把握するため、南湖の各区分においてオオクチバスの捕獲状況を調査した。

2. 方法

調査は電気ショッカーボートによる駆除事業が実施された平成24年6～7月初旬、同年10月、平成25年3月、同年4～5月、同年6～7月初旬、同年10～11月、平成26年2～3月に実施し、事業で捕獲されたオオクチバスを標本とした。調査区分として南湖西部水域8区分（北からA→H）および南湖東部水域6区分（南からI→N）を設定した（図1）。区分ごとに通電時間あたりのオオクチバスの捕獲量、一部区分においてオオクチバスの体長組成、GSI（生殖腺重量/体重×100）および胃内容物を調査した。

3. 結果

平成25年の結果をみると、西部水域の区分B（山ノ下湾）では通電時間あたりのオオクチバス捕獲量は平成25年3月には271.2kg/時間、同年4～5月には214.8kg/時間と他の区分に比べて非常に多かった（図1）。これは産卵のため集まった親魚が効率的に捕獲されたためと考えられた。

平成25年の時期ごとの通電時間あたりのオオクチバス捕獲量は、4～5月が106.2kg/時間（各区分のメスGSI平均値:3.3～5.9）と最も多く、次いで3月が91.2kg/時間（同:1.5～2.5）、6～7月初旬が84.9kg/時間（同:0.6～2.0）と多く、10～11月は46.1kg/時間（同:0.7～0.9）と少なかった（図2,3）。繁殖抑制の観点からも、産卵期前から産卵期に

かけての集中的な駆除が効果的かつ効率的であると考えられた。

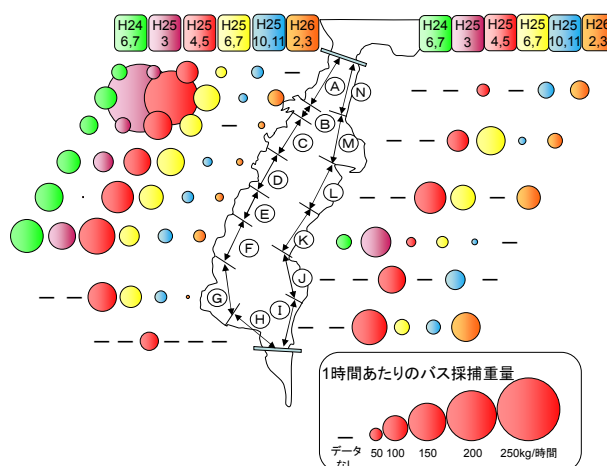


図1 琵琶湖南湖の調査区分および各区分における通電時間あたりのオオクチバス捕獲量

* H25.3まではA～FおよびKで調査を実施。

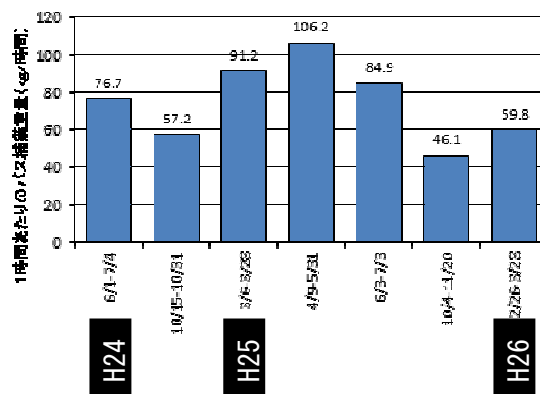


図2 時期ごとの通電時間あたりのオオクチバス捕獲量

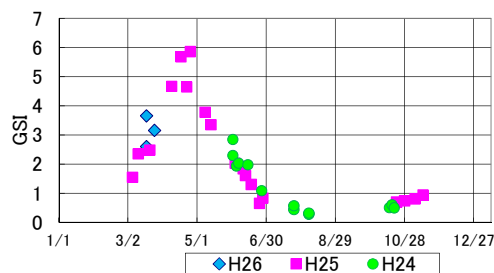


図3 メスGSI平均値の推移

* 体長23cm以上のメスから算出した。